

グローバル講演会「アフリカを身近に感じよう」

5月18日（火）5・6校時、中学2年生・3年生を対象に平和学習の一環として講演を実施しました。生徒は視聴覚室（3年1組と2組）と各教室（2年生と3年3組）で、ZOOMによるオンラインで視聴しました。第1部は講師による講演、第2部は質疑応答の2部構成で実施しました。

講演を通して、生徒一人ひとりが世界平和を希求する精神を養い、地球規模の課題を自分のものとして捉え、世界の「平和を阻むもの」について考えることを目的としました。

講師の早川千晶さんはケニアマゴソスクール主宰として、ケニアで国際支援活動を長年続けられています。早川さんの原点は中学生の頃に遡り、戦争や貧富の差がある矛盾や納得できない世界を知りたいという思いから世界のいろいろな国を旅するようになり、その先にアフリカがあり、その民族や文化の多様性に衝撃を受け、そのままケニアに住み続けるようになったそうです。

講演では、ケニアの現状、キベラスラムに学校（マゴソスクール）を設立した経緯、子どもたちの入学・卒業していく様子や現在大学を卒業して活躍している様子を生き生きと語られました。

【質疑応答】

「ケニアの人たちから学んだ大切なことは何ですか？」

「ケニアは多様性がある。民族、文化、宗教などなど。でも、違っていい。違って当たり前というのが、日常的に語られる。お互いの文化への理解とリスペクトが日々の生活の中にあふれている。」

さらに、夢を叶えているキベラの子どもたちから長崎の子どもたちにアドバイスがありました。

「勉強のできる子も、成績で伸び悩む子もいる。マゴソの子どもたちは、子どもたち同士が助け合って、得意なことを教え合ったりしている。一緒に勉強すると、お互いのプラスになる。生徒同士で教え合い、学び合うことで理解が深まることもある。」

【生徒たちの感想】

講演会の後、マゴソスクールに興味を持ち、家で、YouTubeのマゴソスクールのダンスを見ました。元気いっぱい踊るその様子は、とても楽しそうで、本当に家族のようでした。早川さんの表情もとても生き生きとしていて、行ってみたいくなりました。毎日食べるものに困らないことや、水道や電気が自由に使える環境に感謝しようと思います。近所の人たちと助け合うケニアの人たちの心の暖かさや、辛くても明るく夢に向かってまっすぐなところが素敵だなと思いました。そして、「自然を壊さず大切にすること」という考え方やリサイクルの取組などにも、見習いたいと思いました。とても興味深く、ためになる講演でした。（中2）

早川さんの話を通して「文化を比べて考えない」という言葉が心に残りました。アフリカで旅をすれば、文化の違いによる不満やストレスがあるだろうと考えていたが、早川さんはその違いも受け入れる、楽しいとおっしゃっていて、とても驚いた。世界に対して疑問をもつ、そして、その答えを知るために海外に飛び立ち、その土地の文化を楽しむ。今の私は疑問を持っていても海外に飛び立つことはできない。だから、本やインターネットやオンライン通信での会話などを通して、違う文化を持った人と多く交流したい。そして、自分の中の思い込みや偏見を無くし、世界をよく知った人間になりたいと思う。（中3）

この講演会を機に、いつかケニアの子どもたちと実際にオンラインでつながることができればと期待します。



視聴覚室での ZOOM オンライン配信の様子